

校 園 長 会 研 究 会

会 長 首 藤 敏 元

第 49 回 全 国 国 立 大 学 附 属 学 校 連 盟 校 園 長 会 研 究 会、な ら び に 平 成 28 年 度 日 本 教 育 大 学 協 会 附 属 学 校 連 絡 協 議 会 校 園 長 分 科 会 が 下 記 の 要 領 で 実 施 さ れ ま し た。

日 時 平 成 28 年 8 月 18 日 (木)・19 日 (金)

会 場 K K R ホ テ ル 大 阪

事 務 局 大 阪 教 育 大 学 附 属 学 校 園

(代 表) 大 阪 教 育 大 学 附 属 小 学 校

テ ー マ 変 革 期 に お け る 附 属 学 校 園 の あ り 方

目 的 ○ 国 立 大 学 附 属 学 校 園 長 が 一 堂 に 会 し、変 革 期 に あ る 附 属 学 校 園 の あ り 方 の テ ー マ の も と、研 究 発 表・研 究 討 議 を 行 い、も っ て 附 属 学 校 園 の 運 営 の 充 実 と 使 命 の 遂 行 に 資 す る。

○ 学 校 運 営 に 通 じ る 知 恵 を 学 び 教 育 行 政 の 動 向 を 把 握 し、各 校 園 の 教 育 実 践 か ら 今 後 の 取 組 の アイディア を 得 る。

参 加 者 165 名

【第 1 日】 8 月 18 日 (木)

◎ 開 会 行 事

峯 明 秀 大 会 実 行 副 委 員 長 の 司 会 で 進 行 し、赤 松 喜 久 大 会 委 員 長 の 開 会 の 言 葉 に 続 き、首 藤 敏 元 校 園 長 会 会 長 の 挨拶、向 井 正 博 大 阪 府 教 育 委 員 会 教 育 長 と 栗 林 澄 夫 大 阪 教 育 大 学 長 か ら 祝 辞 を い た だ き ま し た。首 藤 会 長 か ら は、よ り 日 本 の 教 育 界 の 動 向、全 国 の 附 属 学 校 園 の 現 状 と 課 題、現 在 進 行 中 の PTA 連 合 会 と の 協 働 に つ い て、最 後 に 昨 年 度 に 続 き、附 属 学 校 園 に お け る 子 ども の 貧 困 問 題 に 関 す る 緊 急 調 査 の 実 施 に つ い て 説 明 が あ り ま し た。

◎ 文 部 科 学 省 説 明

文 部 科 学 省 高 等 教 育 局 大 学 振 興 課 教 員 養 成 企 画 室 室 長 の 柳 澤 好 治 氏 か ら 行 政 説 明 が あ り ま し た。主 な 内 容 は 以 下 の と お り で す。

公 立 学 校 教 員 採 用 の 状 況

国 立 の 教 員 養 成 大 学、学 部 の 卒 業 者 が 公 立 学 校 の 教 員 採 用 に お い て ど れ だ け の シェア を 得 て

い る か に つ い て、以 前 は 40 % 前 後 を 概 ね 維 持 し て い た が、こ こ 十 数 年 は ほ ぼ 一 貫 し て 数 値 が 落 ち て き て お り、現 在 は 27 % 程 度 で あ る。全 体 的 に 私 立 大 学 等 が 伸 び て い て、結 果、シェア と し て は こ の よ う に 落 ち て し ま っ て い る 状 況 で あ り、私 学 は 無 視 で き な い と い う 以 上 の 相 手 に な っ て き て い る。

② 国 立 大 学 附 属 学 校 の 役 割

国 立 大 学 自 体 の 存 在 が 非 常 に 危 ない 状 態 に あ る と 言 っ て い い。国 立 大 学 法 人 は 第 3 期 の 中 期 目 標・中 期 計 画 の 6 年 間 が 今 年 度 か ら 始 ま っ て い る が、今 後 6 年 間 は た だ そ の 計 画 に 基 づ い て や っ て い れ ば よ い、と い う 状 況 で は な い。ま た、学 習 指 導 要 領 の 改 訂 が 迫 っ て い る こ と か ら、教 員 養 成 大 学 の カ リ キ ュ ラ ム を 変 え る の は も ち ろ ん、教 育 実 習 を 行 う 附 属 学 校 も そ れ に 合 わ せ た 指 導 が で き な け れ ば な ら ない。つ ま り、今 ま で の 実 習 を そ の ま ま や る と い う だ け で は、新 し い 教 員 養 成 の ニーズ に は 十 分 応 え ら れ ない 状 況 に な っ て い る。当 初 の 国 立 大 学 附 属 学 校 の 設 置 目 的・使 命 を 踏 ま え つ つ、今 の 時 代 に 合 っ た 動 き を し て い か な け れ ば い け ない。附 属 学 校 は、教 育 実 習 の 実 施、大 学・学 部 に お け る 研 究 へ の 協 力、地 域 の 公 立 学 校 等 に 対 す る 指 導 的・モ デ ル 的 役 割 を 示 す こ と が 大 き な 役 割 で あ り、そ れ 自 体 は 変 わ っ て い ない も の の、そ の 中 身 が 徐 々 に 変 わ っ て き て い る。

③ 国 立 大 学 附 属 学 校 が 置 か れ た 現 状

一 般 的 に 附 属 学 校 は 効 率 性 が 低 い、目 に 見 え る 貢 献 度 が 低 い 等 の 指 摘 が あ る。効 率 性 が 低 い と い う 点 に 関 し て、教 育 学 部 あ る い は 附 属 学 校 を も つ こ と 自 体 を 重 荷 に 感 じ て い る 国 立 大 学 も 出 て き て い る と 聞 く。そ の よ う な 中 で 自 分 の 学 校 を 生 き 延 ば し て い く た め に は ど う す る か を 是 非 真 剣 に 考 え て い た だ き た い。端 的 に 言 え ば、優 位 性 を ど れ だ け 説 明 で き る か で あ る。自 分 た ち の 中 だ け で 役 に 立 っ て い る と 思 う の で な く、社 会 に と っ て ど れ だ け 貢 献 で き て い る の か を 常 に 意 識 し た 動 き を し て い く 必 要 が あ る。ま た、大 学 の 附 属 の 学 校 園 と い う 位 置 づ け を し っ か り

アピールすることが大切である。附属学校が独自の考えで動いている状況であると、社会のニーズに応えた動きができていない、そもそも大学の附属である意味がない、といった指摘を受ける。大学の附属という位置づけをプラスに考えれば、大学の知的資源を上手く使えるということである。公立学校では、教育委員会が公立学校の各種の申請書の作成にアドバイスしてくれることはあまり多くないのに対し、附属であれば、大学の先生方の知見を使った、深い中身のある計画書を作ることができる。したがって、大学の附属学校であることと、地域への教育への貢献を意識して動くことは、私が考える附属学校によるアピールの仕方の大きな2つの柱である。それから、附属学校が作成する研究紀要等も見直していただきたい、見た目は簡単で汎用性があり、しかし奥深い内容があるものをつくっていただきたい。前例踏襲を改め構成を変えることで、今かけている労力の半分位で済むのではないか。

④ 国立附属学校だからこそ期待される動き

外国語教育も非常に大切なことになる。それに対応できる人材を養成、輩出していかねばならない。そのリーダーとして動いていただくことが、国立の附属学校の存在意義を示すことにつながる。また、多様な研究を行うことは重要だが、自己満足ではだめである。何か新しいことに取り組み、それが社会に還元されるものが良い研究といえよう。しかしながら、附属学校の研究は、他の公立学校等で活用しようがないものが多いように思われる。

⑤ 危機感のある学校運営

最後にいくつか注意点であるが、附属学校にも残念ながら事件、事故の類は起きている。教員免許の更新講習の関係では、免許の失効が発覚した例が、ここ数か月で数件あった。国立大学附属だからこそ厳しく対応すべきだとの声も強い。そのくらいの事態であると強く認識し、適切な対応を宜しくお願いしたい。学校安全についても、先般、障害者施設で事件が発生した

ことも踏まえ、通知を発出している。学校は見慣れてしまうと危険を感じにくくなるので、改めて新鮮な眼で学校の安全をチェックいただくことが大事である。さらに、個人情報の持ち出しや紛失の事件も発生している。こういうことが附属学校で起きると、附属全体の信用を失墜させてしまう。すべての教員の皆さんには、そのような自覚をもって対応いただきたい。とりわけ、附属学校の校長の皆様は、附属学校と大学と両方の視点を持っておられるので、その少し離れた立場から、附属学校に対してしっかりと注意喚起をお願いしたい。

◎ 講演会

俳優の辰巳琢郎氏が「道草のすすめ」と題して、今回の大阪大会実行委員長である赤松喜久氏（大阪教育大学附属天王寺中学校長）との対談の形式で講演が行われました。青年期からの知識欲と読書量が俳優としての氏を作り、またワインソムリエ等の多くの道を究めながらも、全ての経験を役作りに収斂させていく氏の生き方が良く伝わる講演でした。赤松委員長との息の合った対談が印象的でした。

【第2日】 8月19日（金）

◎ 分科会及び情報交換会

校種別の分科会が1日目と同じ会場で行われました。

◇分科会提案＜幼稚園＞

○「幼児の多様な学びを継続させる幼小接続カリキュラムの制作～運動あそびを中心に～」

北海道教育大学附属函館幼稚園 橋本忠和

○「変革期における附属学校園のありかた～かかわり合う力を育む幼稚園の活動～」

宮城教育大学附属幼稚園 浅野治志

○「協働による埼玉大学教育学部附属幼稚園の環境整備～園庭の芝生化～」

埼玉大学教育学部附属幼稚園 大友秀明

◇分科会提案＜小学校＞

○「『12年道徳』の取り組みと成果」

北海道教育大学附属旭川小学校 伊藤一男

○「秋田大学教育文化学部附属小学校における
アクティブ・ラーニングに関する研究活動」

秋田大学教育文化学部附属小学校 林 信太郎

○「変革期における附属学校園の在り方 ～附
属学校園としての小中一貫教育を考える～」

横浜国立大学教育人間科学部附属

鎌倉小学校・中学校 木村昌彦

◇分科会提案＜中学・高等学校＞

○「変革期における附属中学校の活用方策と教
育活動の実際」

弘前大学教育学部附属中学校 清水紀人

○「グローバル社会に生きる資質・能力の育成
～国際バカロレアの教育システムに基づく

『目標・指導・評価一体型』の取組～」

東京学芸大学附属国際中等教育学校 佐藤正光

◇分科会提案＜特別支援学校＞

○「アートを通じて地域とつながる」

北海道教育大学附属特別支援学校 小栗祐美

○「現状と課題を基にした今年度の主な取組」

山形大学附属特別支援学校 佐藤 敦

○「経営学研究者から見た国立大学附属特別支
援学校」

東京学芸大学附属特別支援学校 内田 賢

いずれの分科会においてもフロアからは活発な質問や意見が交わされ、有意義な情報交換が行われました。

2日間という限られた期間ではありましたが、ここでの成果が各附属学校園での発展に寄与するものになることを願っています。分科会の結びにあたり本年度の事務局である大阪教育大学附属学校園の校園長が会をまとめ閉会となりました。

◎ 次期主幹校園

次年度は、岡山大学教育学部附属学校園を主幹校園、岡山大学教育学部附属中学校を事務局として開催される予定です。

開催日 平成29年8月24日（木）、25日（金）

開 場 ホテルグランヴィア岡山